

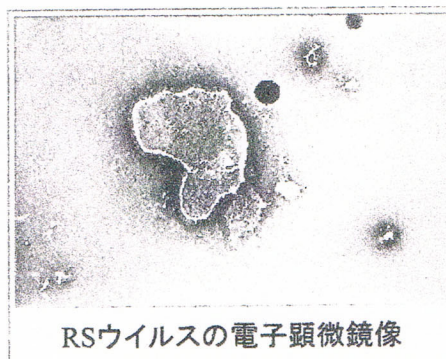
# RSウイルス

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

**RSウイルス**(*respiratory syncytial virus*)は、RNAウイルスの一種で、パラミクソウイルス科のウイルス。遺伝子配列は決定されていて、A型とB型の二つの型に分類できウイルス株間での差違は大きい。

気管支炎や肺炎の原因となる。免疫不全の有る場合や乳幼児は気管支炎・肺炎などの重症になる場合もある。春と夏の感染が多い。感染により発症する宿主は、ヒト、チンパンジー、ウシで、無症状のヤギなどからも分離される。

環境中では比較的弱いウイルスで、凍結からの融解、55℃以上の加熱、界面活性剤、エーテル、次亜塩素酸ナトリウムをふくむ塩素系消毒薬などで速やかに不活化される<sup>[1]</sup>。



RSウイルスの電子顕微鏡像

## 目次

- 1 RSウイルス感染症
  - 1.1 症状
  - 1.2 治療
  - 1.3 予防
- 2 関連項目
- 3 脚注
- 4 外部リンク

## RSウイルス感染症



ご自身の健康問題に関しては、専門の医療機関に相談してください。免責事項もお読みください。

日本では、11～1月にかけての流行が多く報告され、熱帯地域では雨期の流行が多いとされている。乳幼児の肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるとの報告がある<sup>[1]</sup>。1歳までで50～70%以上の新生児が罹患し、その1/3が下気道疾患を起こすと報告されていて、3歳までに全ての小児が抗体を獲得する<sup>[1]</sup>。母親からの抗体では、感染を防げない。くり返し感染しながら徐々に免疫を獲得するため、何度もかかる<sup>[2]</sup>。

生後4週未満では感染の頻度は低いものの、発症したばあい呼吸器症状を起こさ